令和９年度予算編成方針

はじめに

令和９年度は、第六次藤井寺市総合計画の中間年次にあたり、本市がめざすべき将来像「～人と歴史が活きる未来へ～　笑顔と活気に満ちた快適なまち　ふじいでら」の実現に向け、これまでの取組をさらに加速させていかなければならない。そのためには、柔軟な発想の下で機動的かつ戦略的な行政運営、それを支える堅固な財政基盤が不可欠である。

本市は、令和６年度、令和７年度と２年続けて財政調整基金を取り崩すことなく、実質収支で黒字決算を達成した。これは近年の様々な改善や改革、職員の努力が実を結んだものであり、財政調整基金残高も過去最高となっている。

しかしながら、歳入面を見ると必ずしも楽観できる環境にはない。自主財源比率は37.0%に留まり、経常収支比率は 98.8%と「財政の硬直化」の現実からは脱却できておらず、その突破口を見出すには、安定的な税財源の確保はもとより、税外収入についても多角的に獲得の方策を見出していくことが求められる。

こうした状況を職員一人ひとりが認識し、引き続き、財政調整基金の取崩しに頼らない収支バランスが確保できるよう、限られた財源を効果的かつ効率的に執行することを強く意識し予算要求に取り組まれたい。

令和９年度予算編成に向けて

ここ数年の財政状況については、先に述べたように痛みを伴う行財政改革などの実施により、改善されつつあるものの、内外の社会経済情勢の変化による物価高騰や少子高齢化の進行による行政需要への影響に加え、津堂・小山地区の土地区画整理事業、旧病院跡地の整備事業といった本市の成長、発展を担う重要かつ大規模な事業も今後控えていることから、予断を許すものでなく、短期・中長期の両面を見据え財政運営にあたることが求められる。

歳入においては、自主財源の増加、特に安定的な財源の獲得に努めること。また、補助金などの特定財源の確保に向け、国や大阪府からの情報収集を図るとともに、地方交付税や金利の動向を踏まえた上で、地方債などの財源を効果的に活用し、歳入増に繋げること。

歳出においては、前年度予算をベースとするゼロシーリング（前年度比０%の伸び）を基本とする。事業の必要性については、最少の経費で最大の効果が挙げられるか、さらに部内予算の枠内での「選択と集中」「スクラップ アンド ビルド」を追求し、必要に応じて縮小・廃止を判断すること。物価や人件費の高騰等に起因する経費の増大については、価格転嫁が適切であるか、発注方法の変更等の代替手法がないかなどの検証を行ったうえで要求すること。一方、政策的経費のうち「本市の魅力と活力を高め、未来への投資」につながるものについては、部内予算の枠外で査定する。

令和９年度予算は、経常的な経費のみを計上する骨格予算となるが、政策的経費も併せて要求すること。なお、「本市の魅力と活力を高め、未来への投資」につながる政策的経費については、新規施策としての適否を判断した上で、来年度早期に予算化できるよう配慮するので積極的に取り組まれたい。